

図1 伊豆下田サイトの藻場に設置された永久方形枠内の林冠構成種（アラメ・カジメ等）の被度変化  
出典：環境省モニタリングサイト1000プロジェクトによるデータを基にグラフを作成  
(MOB01.zip, [https://www.biodic.go.jp/moni1000/findings/data/index\\_file\\_algalbeds.html](https://www.biodic.go.jp/moni1000/findings/data/index_file_algalbeds.html))



図2 茎状部だけになったカジメ群落と小型アイゴの群れ（伊豆下田サイト）撮影：倉島彰

配置しています。そのうち、最も南にある石垣伊土名サイト（沖縄県）のアマモ場では、全球的にみて北限にあたるウミシヨウブの群落が見られます。こ

この背景には、台風による影響が関係している可能性が挙げられています。鹿児島湾のアマモには、他地域で見られるアマモとは異なり、一年で生育・枯死するという特徴が見られます。これは、多年生のアマモが、高温等の生育条件

「海の中」で「今」起きていることは、普段、我々が直接観察することが難しく、その変化を知るための方法は限られています。限られた場所ではありますが、モニタリングしている藻場を通じて、海域で起きている環境変化にも目を向け、これからの暮らしの在り方を考えていくことが求められていると思います。

## 日本の沿岸域で起きていること — 藻場で異変!?! —

日本国際湿地保全連合 青木美鈴

### ■藻場で異変!?!

環境省が実施している生態系の長期モニタリング事業「モニタリングサイト1000」の沿岸域調査から、藻場（海藻や海藻が生えている場所）の複数の調査サイトにおいて、過去5年の間で海藻や海藻の消失等が確認されています。

### ■コンブ目海藻の消失

海藻藻場のモニタリングでは、全国に6サイトを配置しています。そのうち、最も南に設置されている薩摩長島サイト（鹿児島県）では、日本産コンブ目海藻の中でも最も低緯度まで分布しているアントクメを主体とした藻場をモニタリングしています。この藻場では、アントクメが2016年に激減し、2017年以降はアントクメが生育していない状態が続いています。また、伊豆下田サイト（静岡県）では、コンブ目海藻のアラメ・カジメを主体とした藻場（海中林）をモニタリングしています。この藻場では、アラメ・カジメが2020年に著しく減少し、

### ■ウミシヨウブ群落の衰退

海藻（アマモ類）藻場のモニタリングでは、全国に6サイトを配置しています。そのうち、最も南にある石垣伊土名サイト（沖縄県）のアマモ場では、全球的にみて北限にあたるウミシヨウブの群落が見られます。こ

### ■アマモの消失

このウミシヨウブの減少は、アオウミガメの被食による影響が挙げられています。実際、調査海域では、アオウミガメが視認されるときともに、ウミシヨウブに食痕も確認されています（図3）。

このウミシヨウブの減少は、アオウミガメの被食による影響が挙げられています。実際、調査海域では、アオウミガメが視認されるときともに、ウミシヨウブに食痕も確認されています（図3）。

また、2015年以降も襲来する台風の影響等の群落規模を拡大できない条件が続いたことにより、アマモ場がそのまま消失してしまつた可能性が挙げられています。なお、近年、指宿サイトだけでなく、鹿児島湾に生育するアマモも減少しており、湾全体のアマモの群落規模の縮小が見られています。



図3 アオウミガメの食痕（石垣伊土名サイト）撮影：島袋寛盛



図4 調査地点の海底の様子（指宿サイト）撮影：堀正和

# 「ホテル館周辺の生き物調査」と「リーフチェック・チームリーダー＆チーム科学者養成講座」

ラムネットJ事務局長 後藤尚味

ラムネットJは、2022年1月よりバタゴニア環境助成を受けて、ラムサール条約に基づく湿地の保全、再生、賢明な利用の促進とCEPAプログラムの実施として、年間を通じて、複数の事業を沖縄県の久米島で実施・展開しています。ラムネットJニュースレター第47号で報告した通り3月に「サンゴ礁ウィーク・オンラインイベント・トークリレー」を開催しました。

## ●ホテル館周辺の生き物調査

8月11日の山の日には、久米島ホテルの会と共催で、親子で参加する「ホテル館周辺の生き物調査」を開催しました。親子ともに、小川や池に入って夢中になってヤゴやゲンゴロウを捕まえました。ホテル館の館長で講師の佐藤文保さんに、捕獲した生き物を同定していただくとともに、久米島には世界的に重要と認められたラムサール条約湿地があることを



水の中の生き物を探す親子

教えていただきました。最後にシヨウブの葉で包んだ「脱プラお弁当」を一人ずつ配布して解散しました。

●リーフチェックの人材養成講座  
10月4日～6日には、久米島の漁業者とダイビングショップの方々を対象として「リーフチェック・チームリーダー＆チーム科学者養成講座」を開催しました。当初10名だった受講者が、直前に骨折やコロナ感染等で欠席者が出て5名になりました。3日間かけて実施された講座は、半日室内、半日屋外で行いました。

初日の開会時には、後援の久米島町から副町長の中村幸雄さんに開会の挨拶をしていただきました。また、協力団体の久米島観光協会からは上原一晃さんに挨拶と資料準備、動画撮影の協力をいただきました。共催の久米島漁業組合からは伊関亜里砂さんに現地カウンターパートとして、船・タンクの手配、ダイビングのガイド等あらゆる手配の協力をいただきました。講師はラムネットJ理事の安部真理子さん、そしてアシスタントは、



室内でのリーフチェックの学習

最終日は試験です。午前中に海中で実技試験を行い、午後に筆記試験を行いました。見事に5名とも終了証を手にすることができ、久米島にリーフチェック・チームリーダー＆チーム科学者が新たに5名誕生しました。



水中での実習の様子

「自然体験実技講習専門課じーぐ」の桐本香織さんに務めていただきました。

屋内では座学がメインでしたが、床の上に細長い紙を広げて、その上にさまざまな種類の生き物の写真を貼り付け、また立体的な貝殻やサメのぬいぐるみ等を配置して、その紙の上を海底と見立てて、リーフチェックを模擬的に行うなどの工夫をしました。座学では元気のよい受講生も、海に出るとまさに水を得た魚。生き生きと海の中の作業をこなしていききました。

一緒に作業をする中で、普段は獲物を捕る目線でしか海の中を見ていなかった漁業者が、周辺の環境に気づく視点をしたり、同じ海に潜る業種なのに不思議となかったダイビング業界と漁協の交流が生まれ、うれしい副次効果もありました。

## ラムサール条約第14回締約国会議(COP14)に行ってきます！

ラムネットJ共同代表 永井光弘

2022年11月5日から13日まで、ラムサールCOP14が、中国で開催国として、スイスのジュネーブで開催されます。今回もラムネットJとして現地ですさまざまな活動を行います。

①呉地さん受賞式 ラムサール賞(ワイズユース分野)を受賞したラムネットJ理事の呉地正行さんの受賞式が行われます。受賞理由の一つにラムネットJが取り組んできた「田んぼの生物多様性向上への寄与」が考慮されており、大変喜ばしいです。

②注目の決議案 本会議では今後の湿地保全と管理に影響する重要決議案の審議が行われます。ラムネットJでは、「若者を通じたラムサールつながりの強化に関する決議案」「公教育部門における湿地教育に関する決議案」「気候危機に対処するための自然を活用した解決策としての湿地保護・管理・再生に関する決議案」等について特に注目し、事前に決議案の翻訳をしながら勉強して会議に臨みます。

③サイドイベント ラムネットJは、現地でサイドイベントを2つ開催します。一つは「自然な水の流れ」湿地生態系の保全と再生の秘訣、もう一つは「持続可能な湿地生態系としての水田と人々のための行動」です。いずれも従来

の取り組みをさらに発展させるも



ので、鋭意、準備中です。

④ユースのメンター 今回は2名の若者(ユース)が実際にCOP14に参加し湿地保護の現状やNGOの活動を体験する予定です。IUCN-Jの援助を得て、ラムネットJ理事の安藤よしのさんを中心にラムネットJが彼らのメンター(指導者)の役割をします。若い感性によってどんなことを学び取ってくれるのか、今から楽しみです。

その他、COP期間中ブリスを開設して日本の湿地保全状況を発信し、世界のNGOとも交流を深めます。

急激な円安のため予定した助成金では活動資金が足りません(12月の生物多様性条約COP15の参加も同じ状況です)。リアルタイムのCOP活動報告とともにクラウドファンディングのお願いもすることになります。どうかご支援をお願いします。なお、寄付はオンラインでも可能ですので詳しくは本誌の4頁目をご覧ください。



# 王越とんぼランド (香川県)

王越とんぼプロジェクト実行委員会 三浦大樹

「王越とんぼランド」は、香川県の北部、坂出市王越町にあります。王越町は南を五色台と呼ばれる山塊、北を瀬戸内海に挟まれた地域で、以前は瀬戸内海の至る所で見られた塩田の面影をしのぶことができる数少ない場所です。そんな王越町も全国の農村と同じく過疎化の進行により耕作放棄地が増え、昔はたくさんいたトンボも数を減らしました。

そのことを憂慮した地域住民が王越を再びトンボの群れ飛ぶ里にするため、1993年に王越自然界倶楽部を立ち上げ、「王越とんぼランド」と名付けた耕作放棄地でトンボの保護活動を開始しました。その後、2018年には専門家や自治体も加わった「王越とんぼプロジェクト実行委員会」が発足しました。

本委員会では、王越とんぼランドをトンボが生息しやすい環境にするべく、協力して作った杉の木の虫かご



7月に開催した観覧会の様子

く、乾燥化が進みつつあった耕作放棄地に水路や池を作り、トンボが産卵できるような開放水面を設けました。また、子供たちがトンボなどの生き物と安全に触れ合える場を作るため、長さ100m以上の木道や案内看板などを整備しました。その上で、坂出市内の小学生を対象とした観覧会の開催やパンフレットの作成、広報誌への掲載、マスコミの取材など、啓発活動にも努めてきました。

なお、王越とんぼランドでは、2017年に香川県ではおよそ60年ぶりとなるコガタノゲンゴロウが発見されました(非公表)。また、珍しいトンボを見かけることもあります。しかし、王越とんぼランドの主な目的は希少生物の保護ではありません。失われつつある里山の環境を保護し、トンボを捕まえるなど里山で遊んだ体験を今の子供たちに体験してもらえらる場になることです。捕まえたトンボから指先に伝わる力強さなどを通じて、身近な自然を感じることは自然保護や環境保全の第一歩です。今後環境教育の拠点として王越とんぼランドを活用していきたいと考えています。



## 国内外の87市民社会団体が米連邦議会議員へ書簡を送付

### 辺野古・大浦湾の保護と軍事基地建設の中止を求めて

Okinawa Environmental Justice Project 吉川秀樹

2022年9月7日、国内外の87市民団体が、米連邦議会上院・下院軍事委員会の32議員へ書簡を送付しました。書簡は、沖縄の生物多様性豊かな辺野古・大浦湾で行われている新基地建設の中止と、その新基地建設の理由となっている米軍普天間飛行場の閉鎖を求めるものです。書簡の送付は、沖縄の地元紙だけではなく、米国の有力調査報道メディアThe Interceptも大きく取り上げてくれました。

書簡は、昨年11月の玉城デニー沖縄県知事による辺野古新基地設計変更の不承認を踏まえて作成されたものです。米政府になかなか伝わってこなかった、軟弱地盤や基地建設による環境への影響についての日本政府の調査や米政府への情報提供の問題を浮き彫りにしています。また普天間飛行場における、落下物/墜落、騒音、PFOA/

PFOSの問題を指摘し、なぜ普天間飛行場の一刻も早い閉鎖が必要なのかを訴えています。そして日米政府の主張する「辺野古が唯一の解決策」が成り立たないことを説明しています。

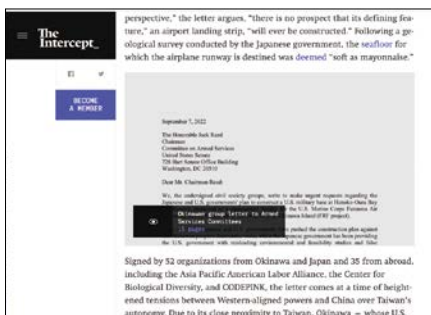
87市民団体には、沖縄の平和、環境、人権の市民団体をはじめ、ラムサール・ネットワーク日本のような国内の環境団体が含まれます。また米国のアジア系労働者の労働運動を率いてきたAsian Pacific American Labor Alliance、米国最大規模の女性平和団体であるCODEPINK、そして米国における「ジュゴン訴訟」の原告Center for Biological Diversityなど連邦議員に影響力を持つ米国の団体も賛同しています。賛同の呼びかけが2週間足らずでも、数多くのそして多様な団体が賛同してくれたことは、市民社会がさまざまな立場から辺野古新基地建設の中止を望んできたことを反映していると言えるでしょう。



埋め立て工事が強行されている辺野古の新基地建設現場 (写真: 沖縄ドローンプロジェクト)

32名の連邦議員は、軍事問題に加えて、他の委員会や会派を通して、環境保護、海洋保護区の設置、航空機騒音の問題、PFOA/PFOSの問題に取り組んでいる議員です。日本の国会を基準にすると、どうしても議会軍事委員会は行政の国防総省の政策を追随、支援するものというイメージになると思います。しかし米国においては三権分立がより明確であり、軍事委員会も国防総省のチェック機関として機能しています。書簡では、同議員らが米国内での取り組みで示してきた誠意と決意で、自らの知識と経験を生かして、辺野古新基地建設の中止と普天間飛行場の閉鎖に向けて取り組むことを期待する、と訴えています。

なお書簡送付後も、海外の団体の要請で賛同募集を継続することになりました。10月10日現在で、100団体そして21名の米州議会や自治体議会の議員が賛同。この動きをもとに、まずは軍事委員会の公聴会で、軟弱地盤の問題を取り上げてもらえるように米国の団体と協力して取り組んでいます。ラムサール・ネットワーク日本の皆さんにも引き続き注視、応援いただけたらと思います。



今回の書簡送付に関する The Intercept の報道



基地建設に反対して連日行われている抗議行動

## ラムサール条約COP14 & ラムサール賞受賞報告会

11/23  
東京  
(& Zoom)

2022年11月5～13日に、ラムサール条約第14回締約国会議（COP14）が、ジュネーブで開催されます。ラムネットJからも7名のメンバーが現地参加して活動を予定しています（本誌2ページ参照）。この報告会では、ラムサールCOP14で何が議論されたのか、現地でラムネットJがどのような活動を行ったのかを報告します。

また、ラムサール賞（ワイズスース分野）を受賞した呉地正行さん（日本雁を保護する会会長／ラムネットJ理事）による、受賞記念講演を予定しています。

下記の会場とオンラインのハイブリッドでの開催です。みなさん、ぜひご参加ください。

- 日時：2022年11月23日（水・祝）  
14:00～16:30（予定）
- 会場：浅草橋ヒューリックカンファレンス  
ROOM1（東京都台東区浅草橋1-22-16）  
オンライン併用（Zoomミーティング）
- 参加費：無料（会場参加・オンライン参加ともに要事前申し込み）
- 申し込み方法  
下記URLまたはQRコードのフォームから  
<https://forms.gle/KRbCdE2S7Hvn5pJRA>

- プログラム
  - ・ラムネットJからの報告
  - ・ユース参加者からの報告
  - ・環境省からの報告
  - ・呉地正行さんラムサール賞受賞報告



- ※プログラムは変更される場合があります。
- 主催：ラムサール・ネットワーク日本
- 問い合わせ：ラムネットJ事務局  
TEL 03-3834-6566 Eメール [info@ramnet-j.org](mailto:info@ramnet-j.org)  
※このイベントは地球環境基金の助成を受けて開催します。

●日本雁を保護する会が山階賞を受賞 ラムネットJ理事の呉地正行さんが会長を務める日本雁を保護する会が、第22回山階芳麿賞を今年7月に受賞しました。約半世紀にわたるガン類の保全活動と調査研究の功績が評価されたものです。呉地さんは今年ラムサール賞も受賞しており11月のCOP14で授賞式が行われます。ラムネットJでは呉地さんの受賞報告会を左欄の案内の通り開催します。

●湿地のグリーンウェイブオンラインミーティングを開催 ラムネットJでは「湿地のグリーンウェイブ2022」を今年も4～8月に展開しました。その報告会を9月10日にオンラインで開催しました。ラムサール条約湿地登録10周年となる中池見湿地の現状について、現地で活動する中池見ねつとから報告があったほか、諫早（長崎県）、吉野川（徳島県）、玉島干潟（岡山県）や北海

道のテーマガーデン内のふゆみずたんぼでの取り組みなど、バラエティ豊かな報告がありました。湿地のグリーンウェイブは2023年も開催します。詳細は次号でお知らせする予定です。

●田んぼ2030プロジェクト第2回ミニフォーラムを開催 ラムネットJ水田部会の「田んぼ2030プロジェクト」の一環として、10月14日にミニフォーラムをオンラインで開催しました。第2回となるこの日は、第1部で「魚のゆりかご水田をはじめとする琵琶湖と共生する滋賀の農林水産業」と題して、今年7月に「世界農業遺産（GIAHS）」に登録された琵琶湖の恵みについて、青田朋恵さん（「ここ滋賀」所長）に話題提供をいただきました。第2部では「自然の恵み（非食物など）を未来に伝えよう」というテーマで、オンライン参加者のみなさんと意見交換を行いました。ミニフォーラム第3回は2023年1～2月ごろに開催する予定です。

### 国際会議参加のためのご寄付のお願い

本誌2ページの記事の通り、コロナで延期になっていた2つの国際会議、「ラムサール条約締約国会議」と「生物多様性条約締約国会議」が、それぞれ11月と12月に開催されラムネットJも参加します。開催場所が中国からスイスとカナダに変わり、さらに円安の影響で、参加のための費用が当初の予算を大幅に超過しています。

ラムネットJでは、今年よりシンカブル（Syncable）というオンラインからクレジットカードで決済できるシステムを利用し始めました。今回はシンカブルで国際会議参加のための寄付を募るキャンペーンを、年末までの期間で立ち上げます。みなさまからのご支援をよろしくお願いいたします。

- シンカブル・キャンペーン <https://syncable.biz/campaign/3822>



## ラムサール・ネットワーク日本 会員募集 !!

ラムサール・ネットワーク日本（ラムネットJ）の活動は、会員の皆様からの会費や、カンパ、助成金などでまかっています。ぜひ、ラムネットJのサポーター（一般賛助会員）になって会の活動を支援してください。もっと積極的に湿地保護にかかわりたい方は、会の運営や活動を担う一般正会員としての入会をお待ちしています。そのほか、団体や企業としての入会も可能です。詳しくは事務局までお問い合わせください。

### 会員の特典

機関誌「ラムネットJニュースレター」を送付するほか、会員限定のメーリングリストに参加できます。ラムネットJが主催する催しの参加費が割引になる場合もあります。

### 入会申込方法

●郵便振替 郵便振替用紙（払込取扱票）の通信欄に、ご希望の会員種別、お名前、住所、電話番号、Eメールアドレスをご記入の上、年会費をお振り込みください。一般銀行から振り込む場合は（払込取扱票への記入ができませんので）振り込み後に上記の申込事項をEメール、FAX、郵便等で右記の事務局までお知らせください。

●ウェブサイト 一般賛助会員、一般正会員については、ウェブサイトからオンラインでの入会も可能です。http://www.ramnet-j.org/join/にアクセスし、「入会申込フォーム」に記入して送信してください。年会費は郵便振替でご送金いただくか、ペイパルを使ってオンラインで決済することも可能です（クレジットカードも使用できます）。

### 振込先

ゆうちょ銀行 振替口座 00140-0-765702 ラムサール・ネットワーク日本  
（一般銀行から）ゆうちょ銀行 〇一九（ゼロイチキョウ）店  
当座預金 0765702 ラムサール ネットワークニホン

### 会員種別と入会申込金（年会費）

会員種別	正会員		賛助会員	
	総会での議決権があります		総会での議決権がありません	
一般	1口	5,000円	1口	2,000円
団体	1口	10,000円	1口	10,000円
特別		50,000円以上		30,000円以上
企業		-	1口	100,000円

### 年会費（入会金）

年会費は毎年4月から翌年3月までの1年分です。入会初年度は、年度途中の入会でも入会金として1年分の会費をいただきます。2～3月に入会の場合、初年度の年会費（入会金）は無料となり、4月からの次年度の年会費としていただきます。

### 事務局

NPO法人 ラムサール・ネットワーク日本  
〒110-0016 東京都台東区台東1-12-11  
青木ビル3F TEL/FAX 03-3834-6566  
Eメール [info@ramnet-j.org](mailto:info@ramnet-j.org)